

## 11月2日の授業への質問・コメントへの回答

Q：自分の口よりも大きなものが食べられないのは、魚も同じですか。

A：ほとんどの魚は自分の口より大きなものは食べられません。

Q：肉食のミジンコはどんなものですか？

A：ノロ (*Leptodora kindtii*) という種類です。びわ湖に生息しているミジンコの仲間では一番大きな種類です。

Q：エビの幼生はプランクトンですが、大きくなったらどうなりますか？

A：琵琶湖のエビは遊泳能力が低く、湖底に住んでいるので底生生物（ベントス）です。海には泳ぐのが上手なエビがありますが、その場合は遊泳生物（ネクトン）や浮遊生物（プランクトン）になります。

Q：カブトミジンコやゾウミジンコ、など単純な名前の付け方ですね。

A：ホシガタケイソウ、ウデツヅミモ、など、何かの形を想像して名前をつけることは多いですね。

Q：ケンミジンコとノミは近いなかまですか？

A：ノミは昆虫です。節足動物門という枠で見れば近い仲間です。

ミジンコは英語で water lice（水のシラミ）と呼ぶこともあります。

Q：ミジンコとケンミジンコ、どうして違う仲間なのに同じ名前？

A：「微塵もございません」の「みじん」、「こ」は子や粉だといわれています。要するに、小さな存在ということですね。

Q：休眠卵はいつ孵化するのですか？休眠卵を作る意味は？

A：休眠卵は、条件が良い時だけ孵化します。休眠卵の多くはそのまま堆積していくようです。子孫を残すうえでの、保険のようなものです。

Q：ノープリウスはなんですか？

A：ケンミジンコは卵から孵化したとき、親とは異なる形で生まれ

てきます。初めは、ノープリウスとよばれる形態です。その後、コペポディットという形態になり、最後に成熟した形になります。昆虫の幼虫のようなものです。びわ湖のプランクトンを調べると、甲殻類の中で数が多いのがノープリウスです。この時期は種類の判別が難しく、ケンミジンコ以外にもノープリウスの形になるものもいます（たとえばフジツボ）

Q：琵琶湖の栄養分やプランクトンの適正值はありますか？

A：有機物が多くなる弊害（利水や湖底の貧酸素化）と、生物の量が増えるということ、バランスが難しい問題です。

Q：補償深度はなぜ一日で収支を取るのですか？1月や1年ではないのですか？

A：藻類の場合は、増殖速度が数日なので、1日で収支をとるほうが現実的です。ただし、光の条件は日によって違うので、「平均的」な日をモデル化して計算することもあります。